

福島県立医科大学々報

目 次

○ 学 事	-----
平成17年4月6日入学式知事告辞・学長式辞	2
平成17年度入学者数	3
平成16年度医学博士授与者（後期）	3
○ 人 事	-----
名誉教授・部局長・教授・講師・事務局職員等	4
新任あいさつ（学生部長、附属図書館長、リハビリテーション研究所長）	5
○ 諸 規 程 改 正	-----
平成17年2月から6月までの諸規程の制定改廃関係	6
○ 評 議 会 ・ 医 学 部 教 授 会 ・ 看 護 学 部 教 授 会	-----
評議会	7
医学部教授会	8
看護学部教授会	8
○ 雑 報	-----
倫理委員会	9
学生の部活動報告（ゴルフ部、ダンスクラブZacc）	10

学 事

■ 平成17年 4月6日 福島県立医科大学 入学式

知事告辞

福島県知事 佐藤 栄佐久

本日、晴れて福島県立医科大学並びに同大学院に入学されました皆さん、誠におめでとうございます。

皆さんは、尊い命を守るという崇高な使命感を持って医学あるいは看護学の道を志し、入学試験の難関を見事に突破され、この栄えある入学の日を迎えられました。

皆さんはもとより、この日を心待ちにし、皆さんを育み支えてこられた御家族の方々のお喜びもまたひとしおのことと拝察し、心からお祝いを申し上げます。

今、我が国は、明治維新、戦後改革に匹敵する第三の変革期にあります。社会システムの再構築が進む中で、来るべき新しい時代が徐々にその姿を現しつつあります。

例えば、国と地方の関係では、三位一体改革を巡って、地方が真の自立に向けて国と対等な立場で協議に臨むなど、地方分権の流れは今まさに、歴史的な分水嶺とも言える状況にあります。

医療分野においても、患者のニーズの多様化や疾病形態の変化など、保健医療を取り巻く環境が大きく変化する中、医療従事者間はもとより、患者との新しい関係の構築や、患者サイドに立った医療サービスの提供がより重要になっていると同時に、へき地をはじめ地域における医療提供体制の確保が我が国の医療政策における大きな課題となっており、地域医療を担う、資質の高い、意欲あふれる多くの医療人を養成することが強く求められています。

県におきましては、「いのち・人権・人格の尊重」という県づくりの第一の基本理念の下、県内どこの地域においても必要な医療が受けられる体制を整備するため、「へき地医療対策アクションプログラム」に基づき、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指して様々な取組みを進めているところであります。

また、本学においては、附属病院への総合診療・地域医療部の設置、患者の視点に立った診療体系見直しによる病棟再編、医師の県内定着に向けた臨床研修制度の充実など、県民の安全・安心の確保に向けた体制づくりを進めながら、一層の地域貢献を実現し得る大学を目指し、来年4月を目途に独立行政法人化の準備を進めております。

このように、将来に向け、積極的な大学改革が進められる中で、本日、自らの未来に大きな希望を抱き、勉学への強い意欲にあふれた皆さんを本学に迎えることができたことは、大きな喜びであります。

どうか皆さんには、医学、看護学のパートナーシップの下、互いに切磋琢磨しながら、専門の知識・技術と高い倫理観を兼ね備え、昨年新千円札の顔となった本県出身の野口英世博士のように、「人類のために生きる」という高い理想を求めつつ、患者さんから信頼される医療人を目指していただきたいと思っております。

終わりに、皆さんがそれぞれの課程において研鑽を積み、立派な医療人となられるよう期待いたしますとともに、御列席の皆様のみますの御健勝をお祈りいたしまして、告辞いたします。

学長式辞

福島県立医科大学長 高地 英夫

本日ここに、福島県知事様、福島県議会議長様のご臨席と保護者の皆様のご列席のもと、平成17年度福島県立医科大学入学式を挙行できますことは、本学にとってこの上ない喜びであります。

ただいま入学を許可された医学部80名、看護学部93名、また、大学院医学研究科24名、看護学研究科9名の皆さん、誠におめでとうございます。本学は皆さんの入学を心から歓迎いたします。保護者の皆様にも心からお慶びを申し上げます。

今、皆さんは年来の願いが叶い、医学や看護学への道に進む喜びに、胸を躍らせていることと思っております。

福島県立医科大学は昭和19年に設立された福島県立女子医学専門学校を母体として、昭和22年に旧制の県立医科大学となって以来、建学60年余の歴史をもつ大学であります。そして、本学建学の精神はさらに歴史を遡り、明治5年に県内須賀川の地に創られた須賀川医学校にその源を求めることができます。皆さんはこのように長い歴史をもつ本学の学生であることに誇りを持ち、これからの勉学に励んでいただきたいと思っております。

皆さんがこれから学ぼうとする医学・看護学は、病を防ぎ、癒し、そして健康に長寿を全うしたいという、人間としての根源的な願望に答えようとする学問であり、その実践が保健・医療・福祉です。

将来、皆さんが医師あるいは看護師となったとき、保健医療の現場で実際に向かい合う対象は、病に苦しみ、悩み、時には死の恐怖すら感じている一人の人間であり、その全人格です。ですから、医療に携わる者は、人の苦しみや悩みを理解できる暖かい思い遣りの心を持ち、かつ人に信頼される教養や良識・倫理観を備えていなければなりません。「ひとのいのちを尊び倫理性豊かな医療人を教育育成する」。これは本学が掲げる理念の一つです。どうか講義や実習に加え、部活や学内外の人との交流を通じて自らを磨き、さらに世界や社会の動向にも目を向けて、円満な人格と優れ

た倫理観を備えた医療人に成長するよう、切に願っています。

一方、皆さんが医師・看護師になるまでには、多くの知識と技術を修得しなければなりません。医師・看護師としての必要な知識・技術を備えることは、専門医療職者に課せられた最小限の義務です。しかも、修得する事柄は、医学や看護学の基本から最新の事柄まで、膨大な量になるはずで、医学・看護学は日々進歩していますから、この道を志した皆さんは、生涯に涉って努力することが求められることを肝に銘じてください。「最新かつ高度な医学および看護学を研究・創造する」と本学の理念に謳われているように、倦まず弛まず努力する姿勢と、自らが課題を見つけ、解決する心構えを学生の間にも身につけてくれるよう願っています。

本学は、いうまでもなく福島県が設立した大学であります。そして、広い県内には十分な保健医療が行き届かない地域もあり、これらの地域をなくすことは福島県民の切なる願いでもあります。「県民の基幹施設として全人的・統合的な医療を提供する」ことは、本学の特色ある理念であり、本学ではカリキュラムの中にも、地域と連携した医学教育を積極的に取り入れています。皆さん自身も地域医療への関心を深め、学生時代に地域医療の実際を多く体験することによって、将来、医療人として活躍するときの糧としてください。

さて、大学院に入学された33名の皆さん。皆さんは医学や看護学の理論・応用の研究を深め、医学・看護学のさらなる進歩・発展に寄与する志をもって入学されました。

今日のような保健医療の高度化や国際化に対応して、継続して地域の保健医療を向上させるためには、学術研究の推進は欠かせません。大学院は、研究能力をもつ医療職者あるいは研究者として活躍できる基盤をつくることにあります。どうぞ大学院の研究生活を通して世界に通用する、優れた研究能力と創造性を備えた医療職者となられるよう願っています。

新入生の皆さん。この自然豊かな、恵まれた環境のキャンパスのもとで、充実した学生生活を送り、大きく成長されることを願って式辞といたします。

■ 平成17年度福島県立医科大学入学者数

① 医学部新入生 80名

出身校所在地	男	女	計
県内	14名	7名	21名
県外	35名	24名	59名
計	49名	31名	80名

② 看護学部新入生 93名 (うち3年次編入生8名)

※(編入生)は外数

出身校所在地	男(編入生)	女(編入生)	計(編入生)
県内	7名(0名)	60名(2名)	67名(2名)
県外	1名(0名)	17名(6名)	18名(6名)
計	8名(0名)	77名(8名)	85名(8名)

③ 大学院新入生 33名

研究科	男	女	計
医学研究科	21名	3名	24名
看護学研究科	1名	8名	9名
計	22名	11名	33名

医学研究科

地域医療・加齢医科学専攻	1名
機能制御医科学専攻	12名
神経医科学専攻	2名
分子病態医科学専攻	9名

看護学研究科

精神看護学領域	3名
がん看護学領域	1名
生態看護学領域	4名
看護教育学領域	1名

■ 平成16年度医学博士授与者 (後期)

[平成17年3月授与]

氏名	学位論文名
酒井 信子	Uninephrectomy induces Progressive Glomerulosclerosis and Apoptosis in Anti-Thy-1 Glomerulonephritis (糸球体硬化病変の進展機序に関する検討—アポトーシスの関連を中心に—)
金崎 聖伸	VEGF Gene Expression is Correlated with Glomerular Neovascularization in Human Diabetic Nephropathy (VEGFの遺伝子発現はヒト糖尿病性腎症での新生血管の発現と相関する)
両角 和人	Chromosomal analysis of mouse spermatozoa following physical and chemical treatments that are effective in inactivating HIV (HIVウイルスを不活化させる物理的・化学的処理を施したマウス精子の染色体分析)
小池 哲史	Hypoxia Inducible Factorにより誘導される大腸癌細胞の接着分子とその機構
内田 久志	Involvement of cyclic AMP-dependent and -independent mechanisms in the relaxation of rat detrusor muscle via β -adrenoceptors

<p>村松 広行 北村 拓也</p>	<p>(ラット排尿筋の弛緩機構におけるβアドレナリン受容体を介したcAMP依存性および非依存性のメカニズムの関与) 下小脳脚障害の探知に関する実験的検討 関節リウマチ滑膜細胞のc-erbB2発現調節機構におけるpoly(ADP-ribose) polymerase1の役割</p>	<p>中野 恵一</p>	<p>initial diagnosis of bullous pemphigoid (水疱性類天疱瘡の初期診断におけるBP180-NC16a ELISA法の評価)</p>
<p>杉本 浩一</p>	<p>Inhibition of membrane type 1 matrix metalloproteinase (MT1-MMP) prevents the RhoA activation dependent -endothelial nitric oxide synthase (eNOS) downregulation induced by oxidized LDL (膜型マトリクスメタロプロテアーゼ1の抑制は酸化LDLによるRhoA依存性eNOS低下を抑制する。)</p>	<p>石川 俊一</p>	<p>甲状腺濾胞性腫瘍におけるhTERT, HBME-1, Galectin-3の発現とその生物学的意義に関する研究 Myocardial strain imaging in rats: the validation and the application for therapeutic assessment in ischemic heart failure (ラットへ心筋ストレインイメージ法の適用: ラット虚血心筋モデルにおける、心筋ストレインイメージ法の妥当性の検討及び薬効評価)</p>
<p>樋掛 剛志</p>	<p>Comparison of expression patterns between CREB family transcription factor OASIS and proteoglycan core protein genes during murine tooth development (マウス歯胚発生過程における転写調節因子OASISとプロテオグリカンコア蛋白遺伝子の発現解析について)</p>	<p>小林 信巳</p>	<p>Development of subtypes of motoneurons in the cervical and thoracic spinal cord of the chick embryo (ニワトリ胚の頸髄及び胸髄における運動神経サブグループの発生)</p>
<hr/> <h2 style="margin: 0;">人 事</h2> <hr/>			
<p>湯浅 武史</p>	<p>Improvement of Platelet Storage for Blood Transfusion (輸血用血小板製剤の保存方法の改良)</p>	<p>◎名誉教授</p>	<p>17.4.1 菅井 尚則</p>
<p>服部 尚士</p>	<p>顔面神経刺激に対する眼輪収縮のフェード視診による筋弛緩薬の効果判定 (Visual Evaluation of Fade in Response to Facial Nerve Stimulation at the Eyelid)</p>	<p>◎新部局長等</p>	<p>兼務 17.4.1 医科大学附属図書館長 平岩 幸一 (医学部法医学講座 教授) 兼務 17.4.1 医学部附属リハビリテーション研究所長 児玉南海雄 (医学部脳神経外科学講座 教授)</p>
<p>大内 一夫</p>	<p>Orientation and distribution of collagen fibers in the sagittal plane of the human adult calcaneus (ヒト踵骨の矢状断面におけるコラーゲン線維の配向性について)</p>	<p>兼務 17.5.1 学生部長</p>	<p>阿部 正文 (医学部病理学第一講座 教授)</p>
<p>八巻 尚洋</p>	<p>Mast cells as a backstay for reducing post-infarct ventricular remodeling through promotion of angiogenesis in the infarct border areas (肥満細胞は心筋梗塞境界領域で血管新生を促進し心筋梗塞後左室リモデリングを抑制する。)</p>	<p>◎新任教授</p>	<p>採用 17.4.1 看護学部ケアシステム開発部門地域看護学領域 教授 結城美智子</p>
<p>生沼 雅博</p>	<p>脳表組織への高頻度単極電気刺激の安全性の検討</p>	<p>◎新任講師</p>	<p>採用 17.4.1 医学部附属病院輸血・移植免疫部 講師 菅野 隆浩 採用 17.4.1 看護学部生態看護学部門成人看護学領域 講師 片桐 和子</p>
<p>星 明彦</p>	<p>Critical threshold of 3-nitropropionic acid induced ischemic tolerance in the rat (ラットにおける3-nitropropionic acid誘導虚血耐性の臨界域値)</p>	<p>昇任 17.4.1 医学部薬理学講座 講師 亀岡 弥生 昇任 17.4.1 医学部衛生学講座 講師 前田 享史 昇任 17.4.1 医学部公衆衛生学講座 講師 渡辺 あや 昇任 17.4.1 医学部麻酔科学講座 講師 中根 正樹 昇任 17.4.1 看護学部生態看護学部門成人看護学領域 講師 伊藤由里子</p>	<p>昇任 17.5.1 医学部泌尿器科学講座 講師 相川 健 昇任 17.6.1 医学部形成外科学講座 講師 鈴木 康俊</p>
<p>尾山 陽子</p>	<p>Evaluation of a BP180-NC16a enzyme-linked immunosorbent assay (ELISA) in the</p>	<p>昇任 17.5.1 医学部泌尿器科学講座 講師 相川 健 昇任 17.6.1 医学部形成外科学講座 講師 鈴木 康俊</p>	<p>昇任 17.5.1 医学部泌尿器科学講座 講師 相川 健 昇任 17.6.1 医学部形成外科学講座 講師 鈴木 康俊</p>

昇任 17.6.1 医学部整形外科学講座 講師 長総 義弘
 昇任 17.7.1 医学部附属病院医療情報部
 講師 竹内 賢

◎新事務局職員等

転入 17.4.1 施設管理グループ参事 佐藤 洋
 転入 17.4.1 医事グループ参事 瓶子 正明
 転入 17.4.1 管理グループ主幹 猪俣 太郎
 昇任 17.4.1 事務局参事兼総務企画グループ参事
 越田 敏和
 発令 17.4.1 予算経理グループ参事 北原 教高
 発令 17.4.1 経営企画グループ参事 緑川 茂樹
 発令 17.4.1 事務局主幹 鶴沢 義孝

■ 新任あいさつ



学生部長就任ごあいさつ

学生部長 阿部 正文
 (医学部病理学第一講座 教授)

平成17年5月1日付けをもちまして、福島県立医科大学学生部長に就任いたしました。これまで2年間医学部教務委員長として3学年にチュートリアル式教育、3・4学年の臨床医学系講義に臓器別統合型講義コースを導入するとともに、学生の授業評価の実施や医学教育ワークショップの充実を図ってまいりました。これも教職員のご協力・ご努力のおかげと考えております。

さて、学生部長は主として大学の教学(学部教育、大学院研究科、大学入試等)を担う職であります。本学の使命は(1)人間性豊かな高い倫理観と多様な資質を有し、課題発見・解決能力と高度な実践的能力を備えた医療人を育成する、(2)独創的で質の高い研究を推進し、医学・看護学の発展と高度な研究能力を持つ研究者の育成を図る、(3)高度先進医療と地域医療の拠点として病院機能の強化に務めるとともに、全人的・統合的な保健医療を提供することです。この本学の使命を達成するためには、本学の入試制度、学部教育、大学院研究科等教学の一層の充実改善を図ることが大変重要であり、独立行政法人化の中期目標・中期計画での大きな課題にもなっております。

例えば、大学の入試制度に関しては、本学のアドミッションポリシーに合った優秀な学生を確保するため、一般選抜のほか推薦入学など多様な入学選抜方法を検討する必要があります。また、学部教育および大学院研究科に関しては、教育方法(チュートリアル式教育、臨床・ワークショップ等)、教育内容(医学部の6年一貫らせん型カリキュラム、看護学部のヒューマン・ケアリング等)

および教育実施体制の充実とともに、研究実施体制の整備(適切な研究者の配置、研究資金の配分等)を図る必要があります。今後公立大学法人として大学間の競争に生き残り、個性に輝く大学としていくためには、必要な教職員の確保と財政基盤の確立とともに、理事長・学長を頂点とした全学的な力の結集と積極的な姿勢が大切です。このため微力ながら努力していきたいと考えております。



附属図書館長 就任ごあいさつ

附属図書館長 平岩 幸一
 (医学部法医学講座 教授)

今年4月1日付けにて附属図書館長を拝命いたしました。就任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

現在、福島県立医科大学は平成18年4月からの独立法人化に向けて準備を進めております。それに併せて附属図書館も組織が大きく変わることになります。その主な構成は、現在の附属図書館と附属展示館からなり、建物自体も現在のままですが、名称は学術情報センターと変更され、再編・整備が行われます。このような再編は、図書館と展示館に蓄積された情報だけでなく、医療情報を除く学内全体の学術情報を集中管理し、学内での情報の効率的な活用とともに、社会に向けて効果的な情報発信を行うことを目的としています。本学では、既に図書館がネット管理を担当しておりますので、図書館と情報センターが別個の組織である大学と比べれば、学術情報センターへの移行はスムーズに進むと思われれます。

再編後の学術情報センターの役割として、まず考慮すべき点は、大学人に限らず、一般の方々にも学術情報センターが開放され、利用されることが求められています。加えて、本学には附属病院がありますので、患者さんの情報利用にも対応すべき時代と考えられます。

一方、学内の教職員の皆様への研究支援には、主に医学雑誌が電子ジャーナル化へと進みつつありますので、ネット上で効率よく閲覧可能なハードウェアの整備、および電子ジャーナルの拡充が必要となります。

更に、本学の学生教育にはチュートリアル教育が導入され、学生自らが課題を模索して学習するという流れの中で、グループ学習のための図書整備、学習場所の確保と利用環境の整備など、学術情報センターが担う役割は一層大きくなると考えられます。

ネットによるアクセスであれ、直接出向くにせよ、気楽に“覗いて”手軽に、しかも手早く情報が利用できる学術情報センターにすることが最も重要なことと思われれます。そのためにも再編・整備に際しては皆様のご支援をお願い申し上げます。

最後に、今年度は法人化に向けて附属図書館にこれまで蓄積された図書などの資産確定という膨大な作業があります。そのため、夏期休暇時期の数日休館はやむを得ないと判断いたしました。休館期間は7月25日から29日までとなります。ご利用の皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願いし、就任のご挨拶といたします。

医学部附属リハビリテーション 研究所長就任ごあいさつ

医学部附属リハビリテーション
研究所長 児玉 南海雄
(脳神経外科学講座 教授)

当大学には、リハビリテーションを専門とする講座はないが、リハビリテーション研究所なるものが存在する。不思議に思う方もいらっしゃると思うので私の知る限りその歴史・沿革について述べる。

昭和35～6年に安保闘争がはじまり、大学紛争が日毎に激しくなっていた。多くの大学は異常な状況に置かれ、学生の授業は勿論のこと、医学部では医局運営をはじめ、大学院や博士号が否定され混乱の状況にあった。福島医大には全国的に名をはせた学生運動の活動家が多く、彼らはいろんな派閥をつくり社会に対する反発に加え活動家同志間の紛争まで惹き起こし、大学は存続の危機に陥っていた。劣悪な環境を少しでも改善しようと、当時の大学首脳陣が博士号を取得するために考え出したのが本研究所であった。それ以降飯坂リハビリテーション病院に附設された本研究所が、当大学における博士号取得のための唯一の窓口となった。大学の機能が復活するには約10年以上を要したが、この間リハビリテーション研究所は博士号授与に貢献したと云える。

私が当大学に奉職した昭和58年には、博士号は各講座で申請出来る様な状況になっていた。本研究所はリハビリ病院の先生方の研究に少しはお役に立っていた様ではあるが、大学の各講座の長が持ち回りで本研究所所長となり、ここに出される講座研究費を使用していたというのが実情であった。大学が杉妻にあった期間は脳神経外科学講座には動物実験室もなかったため、犬を運び何とかこの施設を利用していたが、光が丘に移転してからは使用しなくなった。現在施設は老朽化し何とも使い様がない程になり、管理を任されている飯坂リハビリ病院の先生方には負担になるだけの様な状況にある。この研究所を如何にしていくか真剣に考えるべき時期である事を申し上げ就任の御挨拶と致します。

諸規程改正

■ 平成17年2月～6月までの諸規程の制定改廃関係

- 1 「附属図書館資料の除籍に関する規程」の一部改正（平成17年2月21日改正、平成17年3月1日施行）
地方独立行政法人化に向け、所在不明とされた資料について、その都度、除籍を行う条項を附則に追加しました。
- 2 「附属図書館規程」の一部改正（平成17年2月21日改正、平成17年4月1日施行）
利用者の要望や利便性を考慮して、1回の貸出期間を2週間から3週間に延長することとしました。
- 3 「医師臨床研修費補助金交付要綱」の制定（平成17年3月7日制定・施行）
臨床研修費等補助金は、管理型病院（医大）に対し、協力病院分も含めて一括して交付されるため、協力病院に補助金を交付する要綱を制定しました。
- 4 「医学部履修規程」の一部改正（平成17年3月10日改正、平成17年4月1日施行）
第4学年は、17年度から新課程カリキュラムでコース・ユニット制となり、臓器別コースの授業となることなどから、規程の見直しを行いました。
- 5 「医学部履修規程に関する教授会申し合わせ事項」の一部改正（平成17年3月10日改正、平成17年4月1日施行）
授業科目担当責任者について、「講座等主任」に改めるとともに、第1学年から第4学年までの授業科目にあつては、「コースコーディネーター、企画委員、主担当者」に改めました。
- 6 「毒物及び劇物取扱要領の制定」の制定（平成17年3月18日制定、平成17年4月1日施行）
本学の場合、毒物及び劇物の取扱い等について、特段の定めがなかったことから、適正な保管管理を行うため、取扱要領を制定しました。
- 7 「附属病院臨床修練に関する規程」の一部改正（平成17年3月22日改正、平成17年4月1日施行）
規程で定める庶務について、経営企画グループから管理グループに変更しました。
- 8 「医学研究科運営検討委員会規程」の一部改正（平成17年3月22日改正、平成17年4月1日施行）
大学院医学研究科の再編整備の一つとして、専攻の再編が行われたことにより、委員の構成及び人数を改正しました。
- 9 「附属病院後期研修医設置要綱」の一部改正（平成17年3月28日改正、平成17年4月1日施行）
平成17年度4月から、後期研修（専門医養成コース）

制度を開始することとしました。

- 10 「総合周産期母子医療センター臨床心理嘱託員設置要綱」の制定（平成17年4月1日制定・施行）

総合周産期母子医療センターに、臨床心理嘱託員の設置が認められたことから、要綱を制定しました。

- 11 「医療情報部病病・病診連携嘱託員設置要綱」の制定（平成17年4月1日制定・施行）

医療情報部に、病病・病診連携嘱託員の設置が認められたことから、要綱を制定しました。

- 12 「臨床心理嘱託員設置要綱」の一部改正（平成17年4月1日改正・施行）

設置要綱の名称に、設置の場所である神経精神科の名称を追加しました。

- 13 「附属病院自治医科大学出身臨床研修医の受け入れに関する要綱」の制定（平成17年4月1日制定・施行）

自治医科大学出身の臨床研修医の受け入れに関して、必要な事項を定めました。

- 14 「財務の特例に関する規則」の一部改正（平成17年4月1日改正・施行）

受託者の領収書の発行等、受託者の現金等の指定金融機関等への払込み、指定金融機関等の受託者から現金等の納付を受けた場合の手続きについて、関係する条をそれぞれ追加し、それに伴い収納書及び収入通知書（請求書）兼領収書の様式を一部改正しました。

- 15 「医学部附属病院実習生受入規程」の制定（平成17年4月20日制定・施行）

附属病院において、専門学校等の学生の実習を受け入れる際の規程を制定しました。

- 16 「使用料及び手数料条例施行規則」の一部改正（平成17年5月10日改正・施行）

高度先進医療として承認された活性化自己リンパ球移入療法について、その使用料を定めることとしました。

評議会・医学部教授会・看護学部教授会

■ 評 議 会

【平成17年2月23日定例評議会】

- ・学生部長の選任

次のとおり選任された。

阿部教授（医：病理学第一講座）

任期は、平成17年5月1日から2年間。

- ・附属図書館長の選任

次のとおり選任された。

平岩教授（医：法医学講座）

任期は、平成17年4月1日から2年間。

- ・職務発明審査会委員の一部改選（職指定委員以外）
次のとおり選任された。

挾間教授（医：生理学第一講座）

飯田教授（医：眼科学講座）

大森教授（医：耳鼻咽喉科学講座）

小林(恒)教授（医：物理学講座）

和田教授（医：細胞科学研究部門）

水野教授（看：生体・機能学領域）

任期は、平成19年2月15日まで。

【平成17年3月23日定例評議会】

- ・附属図書館委員会委員の一部改選（職指定委員以外）
次のとおり選任された。

錫谷教授（医：微生物学講座）

穴戸教授（医：放射線医学講座）

藤野教授（医：人文社会科学講座）

小林(恒)教授（医：物理学講座）

和田教授（医：細胞科学研究部門）

大戸教授（医：輸血・移植免疫部）

林教授（看：総合科学部門）

水野教授（看：生体・機能学領域）

宮岡教授（看：応用看護学部門）

任期は、平成17年4月1日から2年間。

- ・組換えDNA実験安全委員会委員の選任
次のとおり選任された。

錫谷教授（医：微生物学講座）

佐藤(由)教授（医：内科学第二講座）

竹之下教授（医：外科学第二講座）

和田教授（医：細胞科学研究部門）

小林(和)教授（医：生体機能研究部門）

遠藤助教授（医：生化学第二講座）

松岡助教授（医：薬理学講座）

土橋助教授（医：R I研究施設）

片平助教授（医：実験動物研究施設）

中川講師（医：人文社会科学講座）

前田講師（医：衛生学講座）

水野教授（看：生態・機能学領域）

任期は、平成17年4月1日から2年間。

- ・個人情報管理者の選任

次のとおり選任された。

大戸教授（医：輸血・移植免疫部）

任期は、平成19年3月31日まで。

【平成17年4月27日定例評議会】

- ・地域医療支援委員会委員の一部改選（職指定委員以外）
次のとおり選任された。

渡辺教授（医：内科学第三講座）

後藤教授（医：外科学第一講座）

大戸教授（医：輸血・移植免疫部）

加藤教授（看：環境・保健学／看護管理学領域）

結城教授（看：地域看護学領域）
任期は、平成17年5月20日から2年間。

■ 医学部教授会

【平成17年3月16日定例教授会】

- 医学部教務委員会委員の改選

次のとおり選任された。

八木沼教授（神経解剖・発生学講座）
挾間教授（生理学第一講座）
福島教授（衛生学講座）
棟方教授（呼吸器科学講座）
横山教授（心臓血管外科学講座）
穴戸教授（放射線医学講座）
岡田教授（数学講座）

任期は、平成17年4月1日から2年間。

- 医学部入学試験委員会委員の改選

次のとおり選任された。

挾間教授（生理学第一講座）
阿部教授（病理学第一講座）
和田教授（細胞科学研究部門）
大森教授（耳鼻咽喉科学講座）
藤野教授（人文社会科学講座）
岡田教授（数学講座）
落合教授（生物学講座）
小林(洵)教授（物理学講座）

渡辺教授（内科学第三講座）【健康診断担当】

任期は、平成17年4月1日から2年間（ただし、健康診断担当の任期は1年間）。

【平成17年4月20日定例教授会】

- 医学部予算委員会委員の一部改選

次のとおり選任された。

生命科学・社会医学系から
平岩教授（法医学講座）

臨床医学系から

飯田教授（眼科学講座）

任期は、平成17年5月1日から2年間。

- 医学部教育研究用及び医療用機器購入機種選定委員会委員の改選

次のとおり選任された。

生命科学・社会医学系から

挾間教授（生理学第一講座）

和田教授（細胞科学研究部門）

臨床医学系から

佐藤(由)教授（内科学第二講座）

飯田教授（眼科学講座）

大森教授（耳鼻咽喉科学講座）

総合科学系から

小林(洵)教授（物理学講座）

任期は、平成17年5月18日から1年間。

- 地域医療支援委員会医学部専門委員会委員の選任
次のとおり選任された。

福島教授（衛生学講座）
渡辺教授（内科学第三講座）
後藤教授（外科学第一講座）
横山教授（心臓血管外科学講座）
上田教授（形成外科学講座）

任期は、平成17年5月7日から2年間。

【平成17年5月18日定例教授会】

- 医学部組織等検討委員会委員の補充

次のとおり選任された。

福島教授（衛生学講座）

任期は、平成18年3月31日まで。

【平成17年6月15日定例教授会】

- 医学部附属リハビリテーション研究所運営委員会委員の改選

次のとおり選任された。

八木沼教授（神経解剖・発生学講座）
佐藤(由)教授（内科学第二講座）
山本教授（神経内科学講座）
菊地教授（整形外科学講座）

任期は、平成17年7月2日から2年間。

- 医学部共同利用研究室運営委員会委員の改選
次のとおり選任された。

本間教授（生体物質研究部門）
和田教授（細胞科学研究部門）
竹之下教授（外科学第二講座）
大波教授（化学講座）

任期は、平成17年6月15日から2年間。

■ 看護学部教授会

【平成17年4月12日臨時教授会】

- 看護学部研究予算委員会委員の選任

次のとおり選任された。

荒川教授（生態看護学部門 成人看護学領域）
加藤教授（ケアシステム開発部門 環境・保健学/看護管理学領域）
結城教授（ケアシステム開発部門 地域看護学領域）
太田助教授（家族看護学部門 母性看護学・助産学領域）

任期は、平成19年3月31日まで。

- 看護学部ファカルティ・ディベロップメント委員会委員の選任

次のとおり選任された。

亀田教授（総合科学部門 外国語）
水野教授（基礎看護学部門 生態・機能学領域）
安藤助教授（基礎看護学部門 基礎看護学領域）
鈴木助教授（生態看護学部門 小児看護学領域）
川島講師（基礎看護学部門 基礎看護学領域）

稲毛 講師 (ケアシステム開発部門 環境・保健学/看護管理学領域)
任期は、平成19年3月31日まで。

・看護学部入試委員会委員の選任

次のとおり選任された。

志賀 教授 (総合科学部門 心理学)
林 教授 (総合科学部門 情報科学)
加藤 教授 (ケアシステム開発部門 環境・保健学/看護管理学領域)

▲壁 教授 (応用看護学部門)

中山助教授 (総合科学部門 外国語)
鈴木助教授 (生態看護学部門 小児看護学領域)
高橋助教授 (生態看護学部門 成人看護学領域)

任期は、平成19年3月31日まで。

・看護学部教務委員会委員の選任

次のとおり選任された。

亀田 教授 (総合科学部門 外国語)
大下 教授 (基礎看護学部門 基礎看護学領域)
水野 教授 (基礎看護学部門 生態・機能学領域)
荒川 教授 (生態看護学部門 成人看護学領域)
宮岡 教授 (応用看護学部門)
粟生田助教授 (家族看護学部門 家族看護学領域)
黒田助教授 (ケアシステム開発部門 環境・保健学/看護管理学領域)

任期は、平成19年3月31日まで。

・看護学部国際交流検討委員会委員の選任

次のとおり選任された。

林 教授 (総合科学部門 情報科学)
結城 教授 (ケアシステム開発部門 地域看護学領域)
中山助教授 (総合科学部門 外国語)
小澤 講師 (生態看護学部門 老人看護学領域)
石田 講師 (家族看護学部門 母性看護学・助産学領域)

任期は、平成18年3月31日まで。

・看護学部教員会委員の選任

次のとおり選任された。

加藤 教授 (ケアシステム開発部門 環境・保健学/看護管理学領域)
鈴木助教授 (生態看護学部門 小児看護学領域)
安斎 講師 (ケアシステム開発部門 地域看護学領域)
木勢 助手 (基礎看護学部門 基礎看護学領域)
角田 助手 (生態看護学部門 成人看護学領域)

任期は、平成18年3月31日まで。

・看護学部学生委員会委員の補充

次のとおり選任された。

伊藤 講師 (生態看護学部門 成人看護学領域)

任期は、平成18年3月31日まで。

・看護学部図書・情報委員会委員の補充

次のとおり選任された。

木村 講師 (家族看護学部門 母性看護学・助産学領域)

任期は、平成18年3月31日まで。

・看護学部公開講座委員会委員の補充

次のとおり選任された。

渡† 講師 (家族看護学部門 母性看護学・助産学領域)

任期は、平成18年3月31日まで。

・看護学部広報委員会委員の補充

次のとおり選任された。

中山助教授 (総合科学部門 外国語)

片桐 講師 (生態看護学部門 成人看護学領域)

任期は、平成18年3月31日まで。

雑 報

■ 倫理委員会

【平成17年1月14日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの (新規申請のみ)】

- No.345 天疱瘡における遺伝的背景の検索
(申請者:皮膚科学講座 教授 金子史男)
- No.351 体外循環中のエクトヌクレオチターゼ活性変化について
(申請者:麻酔科学講座 教授 村川雅洋)
- No.353 進行胃癌に対する十全大補湯の有用性に関する多施設共同研究
(申請者:外科学第一講座 教授 後藤満一)
- No.352 発作性夜間ヘモグロビン尿症 (PNH) 症例の国際登録プログラム
(申請者:内科学第一講座 教授 丸山幸夫)
- No.355 Triamcinolone acetonide (ケナコルトA) 併用硝子体手術の有効性・安全性についての研究
(申請者:眼科学講座 教授 飯田知弘)

【平成17年2月4日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの (新規申請のみ)】

- No.358 機能的Dyspepsia (Functional Dyspepsia) に対するクエン酸モサプリド製剤とテブレノン製剤の大規模無作為化臨床試験 (JMMS)
(申請者:内科学第二講座 教授 佐藤由紀夫)

【平成17年3月4日の委員会で承認又は条件付承認とされたもの (新規申請のみ)】

- No.356 びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫に対するRituximabを併用したBiweekly CHOP療法および大量化学療法+自家末梢血幹細胞移植の有効性に関する検討
(申請者:内科学第一講座 教授 丸山幸夫)
- No.359 小児フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病 (Ph+ALL) に対するimatinib mesylate第II相臨床試験 Ph+ALL04
(申請者:小児科学講座 教授 鈴木 仁)
- No.360 小児リンパ芽球型リンパ腫stage I/IIに対する多施設共同後期第II相臨床試験 LLB-NHL03
(申請者:小児科学講座 教授 鈴木 仁)

- No361 小児リンパ芽球型リンパ腫stageⅢ/Ⅳに対する多施設共同後期第Ⅱ相臨床試験 ALB-NHL03
(申請者:小児科学講座 教授 鈴木 仁)
- No362 小児成熟B細胞性腫瘍に対する多施設共同後期第Ⅱ相臨床試験 B-NHL03
(申請者:小児科学講座 教授 鈴木 仁)
- No364 進行性小児成熟B細胞腫瘍に対する顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)の一次的予防投与の有効性に関する無作為割付比較試験 B-NHL03G-CSF
(申請者:小児科学講座 教授 鈴木 仁)
- No365 イホスファミド脳症に対するメチレンブルー療法
(申請者:整形外科学講座 教授 菊地臣一)
- No366 慢性腎不全患者における経口吸着炭素製剤(クレメジン)の腎不全進行抑制効果に関するランダム化並行群間比較臨床試験 略名:CAP-KD (Carbonaceous oral Adsorbent's effectiveness on Progression of chronic Kindney Disease)
(申請者:内科学第三講座 教授 渡辺 毅)
- No367 手術侵襲に伴う肺障害の有無および術後肺障害の早期診断に対する呼気凝集液の有用性
(申請者:麻酔科学講座 教授 村川雅洋)

■ 学生の部活動報告

ゴルフ部

主将 三 浦 俊 輔

ゴルフ部は現在、男子部員15名、女子部員8名の総勢23名で活動しています。部活動としての練習は学校から離れた広いゴルフ場で、週2回行っていて、更に積極的に自主練習もして、スコアの向上を目指しています。

スコアを向上させるといっても、実際のところ、これは決して楽なことではありません。ラウンドする度にさまざまな問題に衝突し、葛藤することになるのです。例えば、ボールをまっすぐ打ちたいのにどうしても曲がってしまったり、飛距離がまちまちだったりということが度々起こります。そんなとき、自信をなくす、いらいらする、あるいは力が入りすぎる、なんてことになったら、ますますボールの飛びをコントロールできなくなり、スコアを崩してしまいます。しかし、ここで生じた問題を放置せずにしっかりと見据え、何が悪かったのだろうと追求していくことにより、必ずそれがよい結果として現れてきます。ボールが自分のイメージした通りの弾道を示して飛んで、遠くの景色に吸い込まれていったときの快感は、大きく忘れられないもので、更なる練習へと駆り立ててくれるのです。

部員それぞれ、部活に対して求めるものは異なりますが、皆ゴルフが大好きです。この好きって気持ちが最近ゴルフの練習に臨む態度にも良い形で現れている気がします。日頃の練習の積み重ねが、これから迎える夏の大会で十二分

に発揮できるよう、更に部としての団結を強め、頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、いつもお世話になっておりますゴルフ部長の児玉教授をはじめ、OB、OGの先生方に御礼申し上げます。これからも、ご指導のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



ダンスクラブ Zacc

代表 佐 藤 ますみ

ダンスクラブZaccは、毎週木曜日に、ダンスが大好きな人が集まり、活動しています。ジャンルはみなさんご存知のHIP・HOP、LOCK、Jazz、に始まり、HOUSE、GIRL'S HIP・HOPなどのジャンルも練習しています。

今年は、新入部員が13名入部し、現在の部員は36名です。練習内容も充実しており、7時半から練習開始し、遅い人は11時頃まで練習しています。これは、「ダンスが好き」、「ダンスがもっと上手になりたい」という純粋な気持ちから生まれてくるものだと感じています。ダンスを踊って、楽しい、うれしい、こんなことを思っただけなら、私も代表としてうれしいことはありません。今以上に、みんなが楽しく、仲良く踊って行けるようなサークルにしていきたいです!!

新メンバーから一言

石田圭一(医1)…初めてのダンスは困惑と感動の連続で、とても楽しく、刺激的なものとなっています。先輩方は皆温かく迎えて下さり、活動日が楽しみで仕方ありません。

菊池幸乃(医1)…大学入ったらダンスやるべ! と思って入部しました。今度は、ジャズを踊ってみたいです。

佐々木美里(医1)…かっこよく、かつセクシー☆に踊れるように頑張りたいです。

佐藤ルブナ(医1)…まだZaccに入って日は浅いですが、一生懸命頑張ります!

鈴木恵（医1）…まったくの初心者で、いつもあたふたしていますが、いつかはちゃんと踊れるようになりたいです☆

宮崎良平（医1）…自分にとってZaccが初めてのダンス経験ですが、練習はとて楽しくZaccに入って本当によかったと思います！

吉田精孝（医1）…私はダンスに関して全くの素人ですが、優しい先輩方に教えられて楽しく活動しています。

石井たつみ（看1）…まずはちゃんと踊れるようになりたいです？ いつかレゲエを踊ってみせます。

菅野綾（看1）…ダンスはド素人なので上手に踊れるよ～になりたいです☆

佐々木理紗（看1）…とにかく踊りが大スキなので上手くなれるように頑張りたいです!!

柴田奈美（看1）…ダンスは初めてです。いろ②不安ですが、先輩たちのかっこよく踊れるように頑張ります!!

中尾衣里（看1）…初心者で、まだぜんぜんうまく踊れないので、早くカッコよく踊れるようになりたいです☆

塩田朋美（看3）…今はジャズを踊れるように頑張っています。仲良くて、まちで楽しいです。

吉田紘美（看3）…Zaccの明るくて自由な雰囲気が好きです。いつも楽しく踊ってます☆

野地友香里（看3）…初心者ですが毎回楽しく参加しています。これからもワキワキがんばりたいです。好きな食べ物はツナです？

女池朝子（看3）…初心者なので今はみんなについていくのに必死です（涙）がんばりまあす。（><）

小宮枝里子（医2）…ダンスは楽しいですね。ジャズ最高☆これからも頑張ります。



メンバーから一言

川原昭久（医5）…今年こそ男のjazzグループを結成!?

知識美奈（医5）…ロックが好きです！ まだまだ頑張りたいです！

深谷兼次（医5）…HOUSE・BREAK'N・HIPHOPをや

っています。ダンスのことを考えている時間が一番楽しいです。

佐伯匡彦（医4）…1つの作品を作るという目標に向かって一致団結する。この達成感はたまらない！

佐藤ますみ（看3）…私の元気の源は、もちろん「ダンス」です。ダンス大好き!!

佐藤大記（医2）…ダンスを通してZaccの仲間と成長していきたいです。

根岸麻有子（医2）…今年は学ぶダンサーから教えるダンサーになれるようにがんばります☆

村上祐子（医2）…Zaccメンバーと一緒にいつも楽しい時間を過ごしています。今年はロックに挑戦したいです。

佐藤美歌（看2）…今年の学祭ではロックが踊れるようになりたいです。

編集発行 福島県立医科大学事務局
総務領域総務企画グループ
〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL 024(547)1826 FAX 024(547)1995